調査した。同地区では、平成８年度以後の調査研究にて、ほぼ全 RA 患者の調査が進んでおり、種子島保健所による難病疾患支援ネットワーク事業に参加し、継続して RA 患者の把握ができている。人口は９８８１人、有病率４.０％（４０名／９８８１人）である。RA 登録患者は 41 名であったが、１名は調査中に死亡していた。RA 患者の Stage は、1：８名　2：８名　3：１１名　4：１２名　不明：２名　Class は１：２名　2：１３名　3：１９名　4：６名　不明：１名であった。通院状況を見てみると、中種子町南部の患者は、南種子町立病院へ（５名）、北部は西之表市２医療機関へ（４名）通院、町内の２医療機関へ２５名がかかっていた。鹿児島市へは、６名通院しており（２～３ヶ月毎に１回）、本院リウマチセンターへは、4 名が通院し、３.５時間の通院片道時間であった。また特養に１名、治療を受けていない患者が４名であった。寝たきり患者は計４名で在宅２名（１名死亡）、特養１名、病院入院１名であった。

県内 RA 登録医の分布

６地区にわけ、人口と登録医数を見ると、鹿児島市およびその周辺地区に登録医３３名（人口６５.７万人）、北薩地区５名（２４.３万人）、国分隼人地区３名（２１.２名）、南薩地区６名（１６.９万人）、大隅地区１０名（２７.４万人）で、種子、屋久島地区、奄美地区には登録医がいなかった（１６.４万人）。

D.考察と E.結論

リウマチ疾患患者が集中するリウマチセンターの通院患者を分析すると、４５.２％の患者が、病診連携にて居住地区の地元医療機関での治療が受けられる可能性が示された。また受け入れる地元医師の目安として、リウマチ登録医の分布を見ると各地区でかなり差があり、もっと地元の医療担当側に関する調査（DMARD の使用状況など）が必要である。一応、専門病院よりの遠隔地における RA 患者の通院状況をみると、専門病院への通院者が予想以上に多いことが分かった。

F.研究発表

なし

G.知的所有権の取得状況

なし